

価値創造の手段(事業)

堺化学グループは、人々の暮らしを豊かにする素材を開発し、社会に提供しています。社会の変化に伴い、人々の生活様式が変わる中で、私たちの事業内容も進化しています。現在は、環境・エネルギー、エレクトロニクス、ライフサイエンス・ヘルスケアの各分野で、より良い暮らしに貢献する素材を追求しています。



エレクトロニクス

高度情報化社会の発展を支える
(より平等な社会へ)



環境・エネルギー
自然を守る
(地球環境を守る)



ライフサイエンス・ヘルスケア
人々の健康を
支える

外部環境(メガトレンド)から見た堺化学グループ事業のこれから

当社を取り巻く外部環境において注視すべき点は、少子高齢化による人口減少に歯止めがかからず、中長期的に国内GDPの大幅な伸びは期待できないということです。例えば国土交通省の発表によると、新設住宅着工戸数は約25年で30%以上減少しています。当社は、塩化ビニル樹脂用の安定剤など住宅に関連する製品を数多く取り扱っていますが、中長期のトレンドを考えると、国内では住宅関連製品のほとんどが大きな成長を見込めないと考えする必要があります。一方、海外に目を向けると、これまで高いGDP成長率を誇っていた中国市場は減速しつつあるものの、ASEANやインドの市場は、まだまだ高い成長率が期待できます。海外市場で販売を伸ばす。これが当社の取るべき戦略の一つです。

国内市場の伸びは期待できないとはいえ、成長事業では着実な成長が見込まれる市場があります。一つはエレクトロニクス(電子材料)分野です。堺化学グループは積層セラミックコンデンサ(Multi Layer Ceramic Capacitor, MLCC)用の材料(高純度炭酸バリウム、チタン酸バリウム)を事業展開しています。MLCCは電子回路には欠かせない受動部品ですが、電子回路には必ず半導体が搭載されており、半導体の市場動向とMLCC市場はリンクしています。世界半導体市場統計(WORLD SEMICONDUCTOR TRADE STATISTICS, WSTS)によると、2023年の半導体出荷額は5,268億ドルで前年比8%減と大幅に落ち込んだものの、電気自動車の普及拡大や自動車の電装化、生成AIの進展などにより、2024年は6,112億ドル、2025年は6,873億ドルへ伸びることが予測されています。当社電子材料のほとんどがMLCC用途のため、半導体市場の伸長とリンクしてコンデンサ市場は中長期的には当社推定で年率8%程度伸びると見ています。この成長率の高い市場を着実にキャッチアップしていく必要があります。



堺化学工業株式会社
執行役員
経営戦略本部副本部長
経営企画部長
大釜 信治

ライフサイエンス・ヘルスケア分野においても、化粧品材料(サンスクリーン剤)分野やメガネレンズ分野は成長が期待できます。当社はサンスクリーン剤用の材料(超微粒子酸化亜鉛、超微粒子酸化チタン)を事業展開しています。国内のみならず、海外での日焼け防止やスキンケアに対する意識の向上に伴い、サンスクリーン剤の需要は増加しています。コロナ禍の外出自粛によりここ数年は需要が大きく落ち込みましたが、今後は当社推定で年率5%程度の伸長を見込んでいます。また、紫外線吸収機能としてサンスクリーン剤に使用されている有機系吸収剤は環境負荷が高く、環境負荷の低い無機系散乱剤への置き換えが進んでいます。無機系散乱剤をラインナップしている当社にとっては、市場成長を超える成長を実現できる事業環境です。



また当社は、高屈折タイプのメガネレンズ材料をラインナップしています。国際近視機関によると、2020年の世界の近視人口は26億人で、10年間で3割増加しています。さらに2050年には48億人になると推計されています。メガネレンズが年率3%程度で成長が見込まれる中、高屈折タイプはさらに高い成長が期待されます。

事業ポートフォリオについては、SDGs、ESGという観点から、大量にエネルギーを消費して大量に製品を生産するという事業構造を見直す必要があります。高付加価値品へシフトする事業ポートフォリオ変革は、資本効率の良い経営を実現するためだけでなく、環境に配慮した事業構造へシフトするための戦略でもあります。環境に配慮した事業構造へのシフトは、環境に資する当社の製品を伸ばす機会でもあります。一例として、メタネーション触媒や水電解触媒など、カーボンニュートラルへの貢献が期待できる製品開発を進めています。将来的な当社収益への貢献と環境に配慮した事業展開・事業拡大の両立を目指します。

以上のような外部環境を踏まえ、海外市場での拡販を進め、環境・エネルギー、エレクトロニクス、ライフサイエンス・ヘルスケアの3つの分野において、「Smart Materialで社会に貢献できるエクセレントカンパニー」へ変貌を遂げていきます。